

## まがたま <sup>さわべいせき</sup> 勾玉 (沢辺遺跡【白浜地区・白浜町白浜】出土)

勾玉は、装身具の玉の一種です。<sup>じょうもん</sup>縄文時代からみられ、全国各地の遺跡でみつかっています。

一般的にはC字形やコの字形で知られていますが、その形については動物の牙、<sup>たいじ</sup>胎児の姿、三日月を模しているなど諸説いわれていますが、その起源は明らかではありません。

全国では、T字形や子持の勾玉も出土しています。

この勾玉が出土した沢辺遺跡は、<sup>こふん</sup>古墳時代～<sup>ちゅうせい</sup>中世までの痕跡が残されている遺跡です。カツオをはじめとした様々な魚の骨やニホンジカやイノシシなど動物の骨も出土しています。

近くの岩礁で採れたであろう貝も出土しており、当時の白浜の海沿いの人々の漁労・狩猟活動がうかがえます。

勾玉はメノウ製で、流水を伴う水場状遺構から出土しました。この水場状遺構からは、他にも土器類や骨角製品（被熱した<sup>ぼっこつ</sup>ト骨など）、製鉄関連の遺物（<sup>はぐち</sup>羽口など）が出土しています。古代の人々の生産活動や信仰を推定できます。

